

研究構想図

目指す学校像

- 子供の笑顔が輝きあふれる、楽しい学校
- 教職員が教えることの喜びに満ちた学校
- 保護者、地域から信頼され愛される学校

学校教育目標

- やさしい子
- やりぬく子
- げんきな子

児童の実態・願い

- 運動への意欲・関心、運動量の差に2極化が見られる。
- 基本的な知識・技能を身に付けたい。
- けがなく、楽しく運動したい。

教師の願い

- 基本的な体育科授業の実践方法を学びたい。
- 児童が主体的で楽しい授業を実践したい。
- 単元を通して、基本的な知識・技能を身に付けられるようにしたい。

地域・家庭の願い

- けがなく元気に過ごして欲しい。
- すすんで運動に取り組んで欲しい。
- 動きや技ができたときの達成感を味わって欲しい。

体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他社に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

研究主題

自らすすんで運動に取り組む児童の育成  
～体育科の学習・体育的活動を通して～

目指す児童像

自らすすんで運動に取り組む児童

視点①：指導の基礎基本を大切に  
した体育学習

- 運動量の確保
- 児童の発達段階及び実態に応じた運動種目の設定

視点②：運動の魅力を味わ  
わせる手立ての工夫

- 単元計画の工夫
- ルールの工夫
- 場や用具の工夫
- 学習形態の工夫

視点③：体力向上を  
ねらった指導の工夫

- 主運動につながる運動の工夫
- 課題把握・課題解決の方法の工夫

